世界構想プログラム 2026

インターミディエイター講座

ー「あいだ」をめぐる知と方法 ー

・現代社会の複雑な問題群に対し、多様なアクターが連携・協働して、いい結果を出すことは分野を超えたテーマになりました。このなかで、企業、行政、大学にみられる専門閉塞やタテ割り中心の構造を越えていく動きも出てきています。しかし、伝統的な理論モデルや認識枠組み、全員一丸などのビジネス常套句が邪魔をして、せっかくの新しい動きが壁にぶつかり、結局、旧構造に回収されることも少なくないようです。

・こうした中、たがいの違いを充分に認めながら、創造的なチームやグループを形成し、より望ましい関係変化と多様なアウトカムを生みだすのが「インターミディエイター（***intermediator***）」です。異なる文化や文脈を媒介するだけでなく、既存の境界自体を再編成する存在です。

・その役割は、発見的な〈協働の場〉を創り出すこと。そのために、ここではまずリーダー・フォロワー論の限界を学びます。そうでなければ、それぞれの領域のボスが生まれ、個々の閉ざされた論理で動くばかりです。この他にも、2 分法思考の陥し穴や、対話なき多様性と多様性なき対話が Innovation の不発をもたらすことも取り上げます。これらを手始めに、ものの見方と判断の前提が変わる時間を通じて、新たな動きを止めないための知と方法を共有します。「人間と機械（AI）と自然の協働」に積極関与する、次を創る方々のご参加をお待ちしています。

プログラム　5/27：13:30 ～ 15:30 ｜ 6/12, 6/24：10:00 ～ 17:00（ランチをはさみます）

Intro
5/27 Wed.

§ 1　「インターミディエイター」とは

前半
6/12 Fri.

§ 2　マインドセット（1）
　　3分法思考と多元的思考

§ 3　マインドセット（2）
　　多様性・複雑性許容と対話能力

§ 4　マインドセット（3）
　　エンゲイジメント能力と 4 つの ‘active’

後半
6/24 Wed.

§ 5　マインドセット（4）
　　エンパシー能力とエンパワリング能力

§ 6　マインドセット（5）
　　物語り能力（narrative competence）

§ 7　CODA：「開かれた対話と創造の場」へ

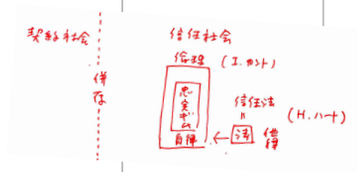
リーダーこそが、指示待ち人間（フォロワー）を再生産する

◉講師

設樂　剛（ Go Shidara, Ph.D. ）

設樂剛事務所 代表

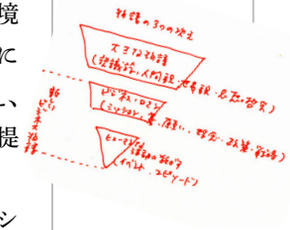
慶應義塾大学 博士〔政策・メディア〕

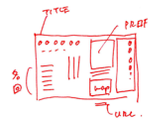


◉ 次を創る人々が、今後の大きな方向をイメージできるよう、開かれた対話を重視。生命論を基調に、人間と環境にとって重要な認識枠組み、思考、語彙の導入・形成に取り組んでいる。人や場に生成変化が生じる条件を捉え、ことば・言語・記号を介して認識を多層化し、判断の前提を革新する。

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科修了後、シンクタンクにて構想・政策領域を担当。LINE の母体企業ハンゲームジャパン㈱ の創設メンバー（初代 CMO 兼副社長）を経て、設樂剛事務所を設立。

◉ 論文（査読付）に、「物語ブランディングの政策効果」（政策情報学会）、「ブランディングにおける物語効果」（情報文化学会）。◉ 公式サイト：archipelagos.jp





会場　九段会館テラス

102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-5

電話：03-6260-9110　URL：kudan-kaikan-terrace.jp

● お問い合わせ・お申込み：ウェブよりご連絡ください

intermediator.jp/contact

もはや革新（イノベーション）の物語を語るだけでは、不十分です。
あらゆる物語の革新（イノベーション）を、物語をもって革新（イノベーション）を。

© SHIDARA & ARCHIPELAGOs